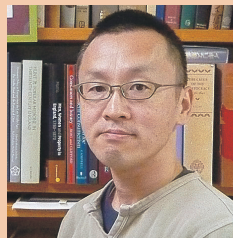


唐澤 達之 教授

【からさわ たつゆき】

好きなものはジャズ。学生時代によく聞いたものは、歳をとった今でも聞き続けますね。デヴィッド・サンボーン、ジョン・スコフィールド、マーカス・ミラー等々、新譜が出るといつつい買っちゃいます。



- 経済史概論Ⅰ・Ⅱ
- 西洋経済史Ⅱ

研究テーマについて

ぼくが長らく取り組んでいる研究テーマは、都市の歴史です。特にイギリスの都市を、他の国・地域のそれとの比較を意識しながら研究しています。「都市」のことを勉強していて面白いのは、多様なバックグラウンドを持つ人たちが集まり住み、お互い知らない者どうしが新たな秩序を作り出していくダイナミックなプロセスがそこにあるからです。また、「歴史」というアプローチの面白さは、昔の人が残した証拠を集めて、自分とは異なる時間・空間に生きていた人々の社会を復元していくことにあると思います。仕事柄、数百年前のイギリス人が書き残した、ほこりやカビにまみれた文書史料をたくさん扱いますが、ぼくはアレルギー性鼻炎なので、この仕事を選んで本当によかった、と今は後悔しています。

都市の歴史

ゼミについて

ぼくのゼミでは、歴史や比較という観点を生かして、経済発展のレベルやその道筋に国・地域の間で違いがどうして生まれてくるのかについて研究しています。一昔前、西ヨーロッパ以外の地域や国は、西ヨーロッパをモデルとしてキャッチアップを目指す「後進」として位置づけられる傾向がありました。が、しかし、現在は、近年の東アジアを中心とした急速な経済成長を目の当たりにして、ヨーロッパとは異なった経済発展の道筋があるのではないかと考えざるを得ない状況にあります。そのため、ヨーロッパとアジアの比較を意識して両地域の経済発展の歴史を見直す動きが近年進んでおり、ゼミではこうした動向に留意して研究を進めています。

ゼミは、グループ研究を中心に進めています。ぼくは、ゼミを、ひとつのワークショップworkshop（工場、こうば）だと思っからです。ひとつ屋根の下で、職人＝学生たちが、それぞれの異なった技を生かしながら、ひとつのものを作り上げていくプロセスで繰り返されるコミュニケーションにこそ、ゼミの醍醐味があります。このコミュニケーションは2通りあります。ひとつは、お互いに異なる価値観・考え方をもちた学生どうしのコミュニケーション。もうひとつは、自分とは異なる時間・空間に生きていた過去の人々（＝歴史）とのコミュニケーション。これらを通じて、想像力・問題発見力・コミュニケーション力を自然に身につけていってほしいと思います。

ゼミ生のひとこと



ゼミでは主にグループで活動を行っています。議論が横道に逸れたり行き詰ったりした時などに先生からアドバイスを受けるのですが、とても分かりやすいです。普通の講義の雰囲気とは全く違って、仲間どうして進めていく授業なので、とても有意義な時間を過ごせると感じます。サークル以外で人間関係を増やしたいという方にもお勧めします。

唐澤ゼミ14期生（2012年卒）